

(株)シティアスコム

経営課題解決の新潮流「BPR」、
その取り組みはコンサルから伴走支援へ

なぜ今「BPR」が注目されるのか

外部環境の変化が著しく、先行きを予測することも困難、かつ事業運営に欠かせない人材確保も厳しい状況が続いている。まさに、Volatility＝変動性、Uncertainty＝不確実性、Complexity＝複雑性、Ambiguity＝曖昧性が特徴の「VUCA」の時代。コロナ禍を経て加速しているビジネスシーンでのデジタル化だが、業務改善（足りない部分にピースを埋めていく）では、真の経営課題解決にはならない。そこで注目を集めているのが「BPR（業務改革）」だ。大企業から始まり、今や企業規模に関係なく取り組みが始まっている。

なぜ、BPRに取り組むのか。企業を取り巻く環境の変化が激しい状況下で、小さな改善で得られ

るものよりも、企業風土や社内のパワーバランスを一旦壊してしまいうことで、企業価値、さらには顧客満足度を向上させる取り組みができるためだ。また、最大の理由としては、BPRの主役は従業員であり、中長期に渡って自走すること、改革意識を持続させ、継続的な効果（外部環境の変化に対応）を発揮する取り組みとなるからだ。

「伴走支援」にこだわる理由

九州最大規模のシステム開発会社、(株)シティアスコム（福岡市、池田勝社長）が提供する企業の課題を解決する自社開発『CAPTAIN』シリーズのBPR支援サービス（CAES: City Ascom Escort support service）は、あえてコンサルテイングではなく、「伴走支援」としていることが特徴。B


PRで重要なのは、継続的に自走することと捉えていることがその最大の理由だ。自分たちで考え、自分たちで実行することが「成功への鍵」と考えているのだ。

BPRに向けて準備すべき4つのこと

さらに、BPRの取り組みを成功に導くために企業が準備すべきことを次の4つと定義している。

- ① 経営層はビジョンを明確にする
- ② ビジョンを社内浸透させ、課題を共有する
- ③ 全社プロジェクトとして捉え、プロジェクトメンバーを選出し、役割の明確化と権限を付与する
- ④ 自社で不足する部分は、外部の知見を利用する

シティアスコムは、創業55年目を迎え、これまで多くの企業のシステムを支えてきた実績がある。ITのプロとして企業に寄り添い、ITのプロだからこそ業務を優先し、最新技術を最大限に活用した解決策を実現できる。そんなBPRこそ、VUCAの時代を生き抜く企業に必要な不可欠なものと言っても過言ではないだろう。



ITのプロ集団による、課題解決に向けた伴走支援サービス

1. 徹底的に寄り添う伴走支援
課題解決の主役は、あくまでお客様。社員一人一人が納得してこそ、本当の課題解決の道が拓けると信じています。

2. ITのプロとして2つの視点でデジタル化を支援
社内では見づらい業務課題を第三者視点で、解決策となるデジタル活用についてシステム目線でアドバイス。

BPR(業務改革)

社員主導で実施するBPRのメリット

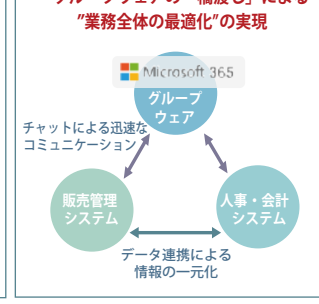
- 業務効率化
- 生産性向上
- 顧客満足度向上
- コスト削減
- 従業員満足度向上

企業全体の活性化

VUCAの時代を生き抜くために企業力をアップする

Microsoft 365 定着化支援

グループウェアの「橋渡し」による“業務全体の最適化”の実現



チャットによる迅速なコミュニケーション

グループウェア

販売管理システム

人事・会計システム

データ連携による情報の一元化

ノーコード開発伴走支援

業務改善を阻害する主要な問題

- IT人材不足
- 組織文化とデジタル変革の隔たり
- 限られた予算

ノーコード開発の伴走支援で課題解決

- 内部スキルの強化
継続的トレーニングプログラムによるスキル向上
- 従業員主導のデジタル改革
積極的に参加できるデジタル化プロジェクト
- コストを抑えたシステム導入
ノーコードツールで初期投資とメンテナンスコスト削減